## 米国の経済指標を斬る! 〈第7回〉

## 労働市場情勢指数(LMCI)

趙 玉亮

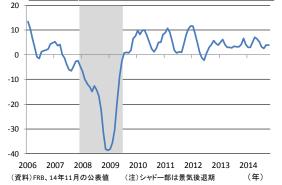
米国の失業率が低下を続ける一方、「雇用の質」を表す指標の回復はまちまちで、 労働市場の改善についても評価が分かれている。こうした中、連邦準備理事会(FRB)は、労働市場の動向を示す総合的な指標として、労働市場情勢指数(Labor Market Conditions Index)を14年10月から毎月公表することとした。

## LMCI はどのような指標

LMCI とは、失業や雇用など 19 の指標をもとに算出される、労働市場の全般的な状況を示す総合指数である。LMCI はゼロを上回ると雇用改善、下回ると雇用悪化を意味する(図表 1)。イエレン FRB 議長がジャクソンホールでの講演(14 年 8 月)で LMCI に言及したことから、その

図表 1 LMCI の指標構成と推移

	組み込まれる指標
失業と不完全 雇用	失業率
	労働参加率
	経済的要因によるパートタイム就業者の割合
雇用	人口に対する民間雇用者の割合
	人口に対する政府雇用者の割合
	人口に対する派遣雇用者の割合
労働時間	生産部門における週間平均労働時間
	一人当たりの週間平均労働時間
賃金	生産部門の時間当たり平均賃金
求人	求人広告指数
入職	入職率
	失業者から雇用者への遷移率
レイオフ	被保険者失業率(失業保険継続受給者数/被保険者数)
	5週未満の失職者の割合(5週未満の失職者/雇用者数)
離職	離職率
	5週未満の離職者、また雇用されていない割合(5週未満の
	離職者でまた雇用されない人数/雇用者数)
消費者と事業 者	消費者信頼感調査の雇用が「十分」と「困難」の差
	全米独立事業者協会による雇用計画指数
	全米独立事業者協会による求人指数
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	



注目度が一気に高まった。

## LMCI の課題と問題点

しかしながら、LMCI は開発されて間もないため、検討すべき課題も多い。

まず、LMCIのモデルやそれに組み込まれる指標の合理性には検討の余地がある。 LMCIの開発者も、「LMCIは公式な統計」というより「スタッフの研究成果」と見なしている。実際、類似した総合指数は他にもあり、例えばカンザスシティ連銀は14年8月、24指標を用いて労働市場情勢指数を開発し公表したが、合理性に対しての検討の余地があるとして、市場関係者にそれほど注目されなかった。

また、毎月、19の指標が更新される度に、LMCI モデルは過去にさかのぼって全ての LMCI 結果を修正している点に注意する必要がある。例えば、10月公表した7、8、9月の LMCI は(2.7、2.0、2.5)であるのに対し、11月分でこの3ヶ月の数値は(3.2、2.7、4.0)であった。こうした修正の存在は市場関係者が利用する上での大きな留意点と言える。

なお、政策当局は、これまで失業率や 非農業部門雇用者数などの個別指標の動 向を追いながら、労働市場の好悪を判断 してきた。一方、LMCI は実際の経済状況 とどのように比較すればよいか、不明な ところが多い。そのため、今のところLMCI は失業率などの個別指標を補完するため の指標だと捉えてよいだろう。今後、政 策当局が政策判断を行う際に、この指標 をどのように利用するかについてはさら なるデータの蓄積を待つ必要がある。